

超電水クリーンシュ!シュ!の生産充填時から、1年毎のPHの変化を観察した。

## 1. 試験方法

生産充填した超電水クリーンシュ!シュ!の経時変化を観察するため、その指標となるPHを20℃で測定した。同一ロットの超電水クリーンシュ!シュ!を500mlのスプレーボトルに10本充填し、密封して1年経過する毎にPH値を測定した。

生産充填日 平成9年3月12日

## 2. 試験結果

測定日	PH値	外観
平成9年3月12日 (生産時)	12.62	無色透明無臭
平成10年3月 (1年経過時)	12.63	無色透明無臭
平成11年3月 (2年経過時)	12.59	無色透明無臭
平成12年3月 (3年経過時)	12.60	無色透明無臭
平成13年3月 (4年経過時)	12.63	無色透明無臭
平成14年3月 (5年経過時)	12.61	無色透明無臭
平成15年3月 (6年経過時)	12.62	無色透明無臭
平成16年3月 (7年経過時)	12.61	無色透明無臭
平成17年3月 (8年経過時)	12.62	無色透明無臭
平成18年3月 (9年経過時)	12.62	無色透明無臭
平成19年3月 (10年経過時)	12.61	無色透明無臭

### 3. 考 察

製品のPHや外観に経時的な変化は現在のところ、みとめられない。  
測定時に汚れの洗浄力もあわせて確認しているが、特に生産直後との差はなく、良好である。

平成19年3月の時点で、丁度10年経過しているので密栓状態の保管では、製品の劣化は起きないと考えられる。

しかし、データは10年間分しかないので、保証できるのは今のところ、10年間である。

### 4. 参 考

ボトルのシュリンクを取り除いても、PHの変化はおきない。

使用状態ではボトル内に残っている超電水クリーンシュ！シュ！の量によっても、異なるが、わずかにPH値が低下する程度で、洗浄力や除菌力が低下することはない。

容器の蓋を取ってあけっぱなしにしておくと、超電水クリーンシュ！シュ！と空気中の炭酸ガスが常に接触している状態となるので、PHは急速に低下する。このことは、超電水クリーンシュ！シュ！が持っている性質の1つで、残留しても安全な理由の根拠になっている。

以 上